

経営比較分析表（平成29年度決算）

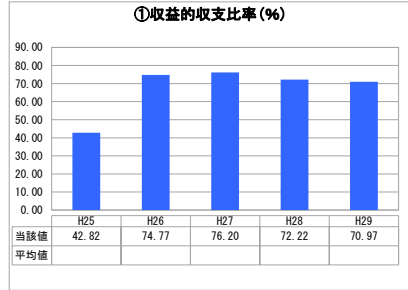
山形県 小国町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	60.20	69.34	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,779	737.56	10.55
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,623	2.08	2,222.60

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



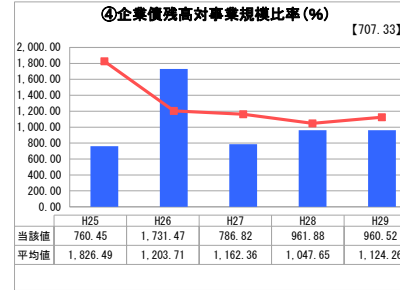
「単年度の収支」



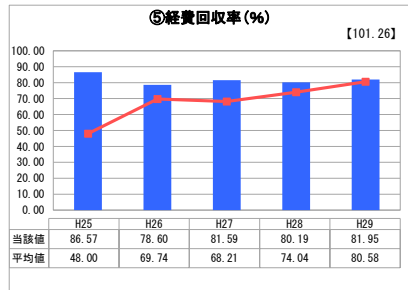
「累積欠損」



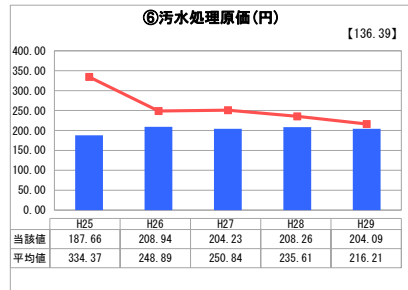
「支払能力」



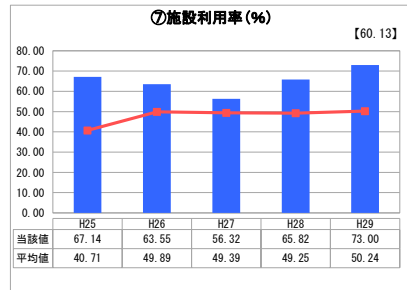
「債務残高」



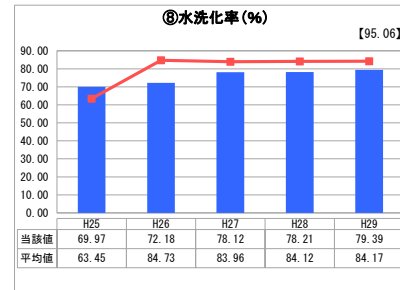
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

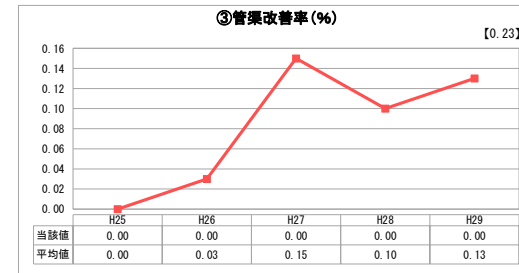
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

<収益>
収益的収支比率は、地方債の償還に充てた一般会計繰入金が多く、100%を下回る状況である。また、経費回収率は、類似団体の平均よりも高い水準が続いているが、使用料収入だけでは賄えない状態であるため、適正な使用料収入の確保と、汚水処理にかかる費用の削減を図っていく。

<企業債残高>
類似団体の平均よりも低い数値ではあるが、年度により増減があるため、事業の平準化を図り、適切な経営に努めていく。

<汚水処理原価>
類似団体と比較すると、平均より低い状態で推移している。人口減少が顕著になる中で有収水量の増加は見込めないが、維持管理費の抑制と加入促進活動を強化し、経営の安定を図っていく。

<施設利用>
類似団体と比較しても高い水準を保っている。しかし、降雨時において処理水量が増加することから不明水対策を実施し、適正な施設利用率の向上を図っていく。

<水洗化率>
年々上昇しているものの、類似団体との比較では低い数値となっているため、水洗化率の向上に向けた取組を進めていく。

2. 老朽化の状況について

管渠は平成4年から布設を行っており、耐用年数には達していないことから、改善(更新)を行っていない。しかし、有収水量に対し、処理水量が多く年々不明水の流入が増加傾向にあることから、計画的に調査を実施していくこととしている。さらに、調査の結果をもとにストックマネジメント計画を策定し、今後長期的に安定して使用していけるよう努めていく。

全体総括

平成4年に工事着手、平成11年に供用を開始した本町の下水道は、平成29年度に管渠布設が終了し、今後は施設の老朽化対策や改築更新を含めた維持管理が主体となる。水洗化率の向上を含め、今後も加入促進活動に力をいれていく。

しかし、人口減少等による使用収入の減少や施設の老朽化が進み、経営環境は悪化していくことが予想される。

このため、施設の適切な維持管理を実施していくため、下水道ストックマネジメント計画を策定し、下水道施設を長期的に安定して使用できるよう努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。